



発行日 2025. 6. 1
発行者 渡辺 真樹
発行所 一般社団法人
群馬県理学療法士協会事務局
群馬県前橋市大渡町 1-10-7
群馬県公社総合ビル 6F
源流題字 浅香 満
編集責任者 榊原 清

源流

No. 162

Contents

■群馬県理学療法士協会 会長挨拶 渡辺真樹	02
■理学療法アラカルト「理学療法士としてHADをどう予防していくか」 風間寛子	03
■職場紹介「株式会社メディカルエージェンシー」 今井俊太	04
■後輩理学療法士へ 福田光貴	05
■【新設】公益事業局 産業保健部について 塩浦宏祐	06
■令和6年度公認中級パラスポーツ指導員講習会群馬を受講して 賛田 高弘	07
■第40回臨床講習会 開催	08
■第22回群馬地域リハ研究会 開催 ■後期研修E講座 第2回事例検討会 開催	09
■第5回災害支援とリハビリテーションに関する研修会	10
■令和6年度中毛ブロック施設間連絡会 開催	
■第55回技術講習会 開催	11
■第1回群馬PT学生交流フェス 開催	
■会員動向 ■ニュース收受 ■編集後記	13

群馬県理学療法士協会 会長挨拶

一般社団法人 群馬県理学療法士協会
会長 渡辺 真樹



皆様こんにちは。会長の渡辺です。日頃より協会活動にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。各職場では新入職の方も少しずつ慣れてきた頃かと思えます。思った通りに仕事が進められず、戸惑いを感じる人もいるでしょう。また、思ったように指導できず悩んでおられる中堅の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。どちらも焦る必要はありません。職場の上司、先輩、同僚に相談しながら着々と進めれば光が見えてきます。この時重要なのは、謙虚な姿勢でいること、そして色々悩んで検討した結果で行動を起こすことだと思います。行動を起こす事によって、見えてくるのが沢山あるからです。

私も会長としての1期（2年）が終わろうとしています。正直先行き不透明で不安な日々もありました。しかしこの2年間、可能な限り様々な場所に身を置き、人脈を広げることが出来たおかげで、多くの学びがありました。その中で一つ皆さんに関心を持ってもらいたいことがあります。それは「政治」です。

私たち理学療法士は、日々患者様や国民の健康と生活の質を向上させるために尽力しています。しかし、その努力が最大限に実を結ぶためには、私たちの専門分野を取り巻く社会的・政治的環境を理解し、積極的に関与することが必要です。政治は、医療制度や福祉政策、教育、そして私たちの処遇を含む職場環境に直接的な影響を与えます。例えば、医療費の予算配分やリハビリテーションに関する法改正は、私たちの仕事のあり方や患者様等へのサービス提供に大きな影響を及ぼします。これらの政策決定において、私たちの声が反映されることが重要です。そのためには、私たち一人ひとりが政治に関心を持ち、政策提言活動等を通じて、理学療法士としての視点を社会に発信していく必要があります。私たちの専門職としての経験は、より良い社会を築くための貴重な資源です。

皆様と共に、理学療法士の未来を切り拓き、患者様等にとって最善の環境を実現するために、政治への関心を深めていただく事を切に願っております。

理学療法アラカルト

「理学療法士としてHADをどう予防していくか」

群馬県立心臓血管センター

風間 寛子



2025年、国民の5人に1人が後期高齢者となり、日本経済や社会に対する深刻な影響が危惧されています。医療や福祉の現場に携わることの多い我々理学療法士には、介護や疾病の予防、健康寿命の延長といった重要な役割が課せられていることは言うまでもありません。

近年、フレイルやサルコペニアといった高齢者の虚弱、身体機能の低下を表す言葉に加え、入院関連機能障害（HAD：Hospital Associated Disability/ Hospital Acquired Disability）という言葉が耳にできるようになりました。HADとは急性入院中の安静や活動量の低下によって患者のADL能力が低下する現象を指し、身体機能の低下、再入院リスクの増加、在宅復帰率の低下、死亡率の上昇、QOLの低下などとの関連が報告されています。HADの定義はいくつか報告されていますが、退院時のBarthel Indexが入院前と比べて5点以上低下しているもの、という定義が簡便で臨床応用しやすいと思われます。一般内科及び外科病棟に入院した65歳以上の患者におけるHAD発症割合は約30%と報告されており、入院後にできなくなったADLの半分以上は、病気そのものではなく入院プロセスに起因しているそうです。高齢者にとって入院は、治療（手術や薬物治療）が成功したとしても、新たな機能障害を発生させその後の生活に大きな支障をきたすリスクを伴っていると言えます。

HAD発症の原因としては、臥床傾向や認知機能の低下、貧血、腎機能低下、栄養不良、などに加え、入院前のADLの情報が不明確で適切な介入が遅れる、ベッド中心の生活環境、リハビリテーション実施不足、などが報告されています。我々理学療法士には、早期介入、入院前ADLについての正確な情報収集、病棟や他職種と連携した活動性向上プログラムの立案と実行が求められています。「毎日40分リハビリをするけどその他の時間はご飯とトイレ以外寝て過ごしている。」「自分で廊下を歩きたいけど転んだら危ないって言われるし、看護師さんは忙しそうだから頼めないし…。」といった患者さんの言葉を私はよく耳にします。HADを予防するためには、自分たちが介入する以外の時間に患者さんの活動量をいかに向上させることが出来るかが重要となります。これは、非常に難しい課題です。しかし、HADを「理学療法士の視点と行動次第で防げる機能障害」と捉え、私たちが主となり病院全体で予防するための方法を模索していかなければなりません。私自身、まだ確実な突破口を見出すに至らず試行錯誤の日々ですが、「ADLが低下してから気づく」のではなく「リスクを見逃さず予防できる」理学療法士でありたいと思っています。責任とプライドを持って患者さんの人生に関わっていけるよう、これからも一緒に頑張っていきましょう。

参考文献

- LodyC, MarklandAD, Zhangy, etal. :Prevalence of Hosptal-Associated Disability in Older Adults: A Meta-analysis. Am Med Dir Assoc. 2020;21:455-461.
- Covinsky KE, Pierluissi E, Johnston CB. Hospitalization-associated disability: " She was probably able to ambulate, but I' m not sure" . JAMA.2011; 306:782-93.



職場紹介

「株式会社メディカルエージェンシー」

編集長 今井 俊太



現在 12 期目を迎えた会社を運営しています。主な事業は、PTOTST 向け会員制メディア「POST（ポスト）」の運営です。編集長という肩書きを名乗ってはいますが、実際には記事制作、取材、編集、配信、広報、広告営業、キャリア相談まで、毎日あらゆる業務に取り組んでいます。

POST は、療法士に関わるニュース・トピックを日々発信するウェブメディアで、診療・介護報酬改定、協会の動向、病院経営や職場の給与状況といったリアルな情報を扱う、少しニッチだけれども社会性の高いメディアです。現在、登録会員数は 5 万人を超え、療法士業界における情報プラットフォームとして、多くの方に活用いただいています。

また、POST の特徴のひとつに「療法士のキャリアを紹介するインタビュー」があります。これまで約 400 名の療法士に取材を行い、その人生や価値観、転職について記事や動画で紹介してきました。中には、公認会計士に転身した方、プロ球団のトレーナー、海外で活躍する PT、研究者や教授、地域活性に取り組む方、そして登録者 100 万人以上の YouTuber まで——「療法士」という肩書の向こうに、こんなにも多様なキャリアの可能性があるのかと、毎回私自身が驚かされます。

思えば私自身も、キャリアの軌道が大きく変化してきた一人です。

元々は「どんな痛みでも取り除ける PT になりたい」と整形外科クリニックに勤務していました。その後、技術指導の講習会を各地で開催するようになり、そこから出会いやご縁を重ね、POST の立ち上げへとつながっていきました。

キャリアは、自分でコントロールしているようで、実は偶然の連続でもあります。

「キャリアの 8 割は偶然によって決まる」とされる「計画的偶発性理論」という考え方がありますが、まさにその通り。大切なのは、偶然を見逃さないこと。そして、「面白そう」「やってみたい」と感じたときに、すぐ動けるかどうかです。

今では、POST というメディアを活かして、転職やキャリアに悩む療法士の方々の相談に乗ったり、病院・施設・企業の採用支援にも携わるようになりました。求職者の声を直接聞き、求人側のニーズとつなぐ「人と職場の橋渡し」のような役割です。最近では企業とのアンケート調査や広告プロモーションなども手掛けるようになり、「療法士としての経験がここまで活かせるのか」と、自分でも驚くことがあります。

そして今、日々の業務では AI を積極的に取り入れています。記事執筆の補助はもちろん（この文章も AI が書いているかもしれません）、ディープリサーチやデータ分析など、AI との共創が当たり前の時代に突入していることを実感しています。情報収集力や構成力といった編集者的な視点は、療法士の「評価力」にも通じる部分が多く、実は相性がいいのではと感じています。

ここまで読んで、「なんだか特別なキャリアに聞こえるな」と感じた方もいるかもしれません。ですが、POSTの運営も、インタビューも、広告運用も、どれも“療法士としての視点”があってこそ形になった仕事です。

臨床現場で培った「観察する力」「相手の本質を見抜く力」「課題を特定し解決する力」は、どんな場でも通用する“武器”です。私たち療法士は、患者さんの身体だけでなく、組織の課題、人材のマッチング、社会の中での役割さえも評価し、再構築することができるのだと、日々の仕事を通して実感しています。

群馬県で働く皆さんの中にも、「今の職場がすべてではない」と感じている方はいるかもしれません。でも、いきなり環境を変える必要はありません。少し視点を変えるだけでも、日々の仕事に新しい意味が見えてくることがあります。

私の職場は、「情報を届ける」ことが使命です。

ですが、その情報の裏には、常に「誰かの人生が少し前向きになるように」という思いがあります。ぜひ皆さんも、療法士という資格の枠にとらわれず、自分なりのキャリアを描いてみてください。POSTでも、皆さんの声を届ける準備はいつでも整っています。

後輩理学療法士へ

介護老人保健施設 老健くろさわ
福田 光貴



老健くろさわに勤めている理学療法士6年目の福田光貴と申します。入職から約2年間は急性期リハビリを経験し、現在は訪問リハビリを担当しています。

新入職の方は、初めての職場環境に慣れることや、先輩や同僚との人間関係を築くことなどに不安を感じることもあるかと思います。この場を借りて、私の経験をお伝えさせていただきます。

私自身、コミュニケーションに悩んだ時期がありました。特に、先輩への相談の仕方では、どのタイミングで、どのように切り出すべきか分からず、遠慮してしまうことが多くありました。ある患者様のリハビリ方針について疑問を感じた際、すぐに相談できず、適切な判断が遅れてしまった経験があります。この経験から、日頃から先輩と気軽に相談できる関係を築くことの大切さを学びました。

こうした経験を重ねる中で、失敗を恐れずに挑戦することで少しずつ自信へと繋がっていきました。困難な状況に直面した際も、素直に相談し、学び続けることで成長できたと実感しています。

リハビリには、患者様との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力が不可欠です。まずは、信頼関係を築くために、患者様一人ひとりの声に耳を傾け、ニーズに寄り添う姿勢を忘れずに取り組んでください。また、同僚や先輩とのコミュニケーションを通じて、互いに学び合う姿勢も大切です。

理学療法士として成長するためには、知識と技術の習得はもちろん、思いやりと継続的な学びが重要です。理学療法は日々進化しています。最新の情報を取り入れ、自己研鑽を続けることで、より質の高いリハビリを提供できることと思います。皆さんの努力が、多くの患者様の笑顔へと繋がることを信じています。これからの皆さんの道のりが実り多いものとなるよう、応援しています。

【新設】 公益事業局 産業保健部について

産業保健部 塩浦 宏祐

【産業保健分野における理学療法士への期待】

60歳以上の雇用者割合は18.7%、労働災害による死傷者のうち60歳以上が占める割合は29.3%（令和5年、厚生労働省）と高い水準にあります。特に転倒災害は中高年女性を中心に多発しており、対策が求められています。このような状況の中、理学療法士が身体機能の維持・改善を通じて労働者の安全確保に寄与することが期待されています。また、厚生労働省が策定した第14次労働災害防止計画では、高齢労働者の災害防止や腰痛予防が重点課題とされ、理学療法士の活用が推進されています。

【群馬県理学療法士協会における産業保健活動】

群馬県理学療法士協会では、令和4年度より高齢者就労支援事業を開始し、介護施設や訪問介護ステーションを対象に講座や個別指導を実施してきました。令和6年度からは講師の公募を行い、一般企業への展開を開始しました。今年度は本格的に一般企業への事業拡大を進め、より多くの労働者の健康維持と労働災害防止に貢献していきたいと考えています。今後、急増する社会的問題である労働力不足にも寄与し、社会全体への貢献を目指します。

これまで本事業は社会局 地域包括ケアシステム部が担当していましたが、令和7年度以降は新設される「公益事業局 産業保健部」が継続して運営を担います。

【令和6年度実績】

- ・実施事業所数：18事業所
- ・理学療法士派遣回数：延べ24件
- ・参加理学療法士：18名
- ・参加者数：出前講座 175名、体力測定・個別指導 26名

【今後の予定】

令和7年6月以降 介護施設および一般企業に対して「出前講座」と「個別評価・指導」を募集（30事業所を予定）。

令和7年8月以降 理学療法士を派遣。

① 公募・派遣スケジュール

- ・令和7年5月～6月：講師公募（30名を予定）
- ・令和7年7月：派遣前事前研修
- ・令和7年8月～令和8年3月：理学療法士派遣

② 講師条件

以下のいずれかの資格を有する者。

- ・介護予防推進リーダーもしくは地域ケア会議推進リーダー
- ・認定理学療法士（地域理学療法、健康増進・参加、介護予防理学療法士）
- ・専門理学療法士（地域、予防理学療法）



一般企業での出前講座の様子

※公募に関しては群馬県理学療法士協会ホームページにてお知らせいたします。

令和6年度公認中級パラスポーツ指導員

講習会群馬を受講して

榛名荘病院 贅田 高弘

はじめまして。高崎市にある一般財団法人榛名荘榛名荘病院、理学療法士の贅田高弘と申します。宜しくお願い致します。

今回、私が表記の講習会を受講するきっかけとなった理由として、2024年9月29日に行われました群馬県理学療法士協会地域局スポーツ推進部の研修会『パラスポーツにおける理学療法士の役割』の講師を務めてくださった、赤岩龍士先生のお話を聞いたことが挙げられます。赤岩先生は、富士リハビリテーション大学校の教員の傍ら、2024パリパラリピック日本選手団拠点トレーナーとして活動され、さらに日本パラ・パワーリフティング連盟のトレーナーとしてご活躍されています。私自身、赤岩先生のパラスポーツに対する熱い思いに感銘を受け、パラスポーツに対する見方・考え方が大いに変わったことを鮮明に覚えています。そして、群馬県では初開催となります、令和6年度公認中級パラスポーツ指導員養成講習会群馬を受講する決意を致しました。

ご存知の方もいると思いますが、パラスポーツ指導員は公益社団法人日本パラスポーツ協会が定める資格で、初級・中級・上級に分かれています。中級では地域のパラスポーツ活動におけるリーダーとして、スポーツ大会や行事において中心となって活動し、パラスポーツの普及・振興を支えることができることを目的とされています。講習会には全国の理学療法士約40名が参加となりました。11月30日・12月1日・7日・8日の4日間、合計30時間、朝9時頃から夕方18時頃まで、様々な障がいに対する講義、実際に体験するパラスポーツ演習と、頭を使い、体を使い、体を使い・・・と、とても体力を要したことを覚えています。講習では、パラスポーツにおいて、世界で活躍されている現役メダリスト選手や、元日本代表レジェンド選手の方々による貴重な講演もあり、とても刺激を受けました。パラスポーツ演習では、車椅子バスケットボール、車椅子ハンドボール、ゴールボール、ボッチャ等、様々な体験をすることができました。率直な感想、「楽しい!」、チーム同士の知識・体験談の意見交換。年齢層も幅広く、自分が知らない事もたくさん吸収でき、とても実りのある時間を過ごすことができました。講義・演習終了後にはレポート課題もありましたが、無事、全ての課程を修了し、令和7年度よりパラスポーツ中級指導員として活動する機会を得ることができました。

今回の講習会により、障がいを持たれている方が、スポーツに関われることがどれほど大切なことか理解できました。様々な理由で、パラスポーツに関われていない方もいると思いますが、一人でも多くの方が参加できるよう、パラスポーツ指導員の働きかけが必要であると感じました。これから、群馬県内のパラスポーツに関わりが持てるよう、行動に起こせればと思います。また、同じ志を持った人との出会い、繋がりができたこともこれからの自分の活動の糧となることは間違いありません。

最後になりますが、講習会開催にあたりまして、ご多忙の中、講義をして下さいました先生方、運営にご尽力頂いたスポーツ推進部の皆様に感謝申し上げます。

研修会報告

第40回臨床講習会 開催

令和7年2月2日（日）、群馬大学医学部 臨床大講堂にて第40回臨床講習会が開催されました。「理学療法におけるモバイル機器の活用」をテーマに、金沢大学先端観光科学研究所 金居 督之先生よりご講義いただきました。現在、モバイル機器は多様化しており、モバイルヘルスの概要、メリットについてお話しいただきました。スマートフォンは家庭内の世帯保有率は2023年現在で、90%を超えており、モバイル端末全体では95%以上を上回っているとのことを知り、今後10～20年でさらに身近なものとなることが示唆されます。また、モバイルヘルスの適用範囲は予防にとどまらず、診断や治療、管理・リハビリにも活用できることを学びました。スマートウォッチの受容や購買意欲については、男女により異なり、iPhoneによる歩数測定の精度についてもご講義いただき臨床場面での活用例について具体的に教えていただきました。

モバイル端末の適用範囲は非常に広く、疾病管理改善効果やリハビリテーション・理学療法領域での活用も期待されます。個人差を踏まえ、強度や量を調整し、可能なものから取り組み、今よりも少しでも多く体を動かすことを全体の方向性とし、行動変容を促せるよう明日からの臨床に生かしていければと強く感じました。



第 22 回群馬地域リハ研究会 開催

令和 7 年 2 月 15 日（土）、群馬県 POS 連絡協議会、群馬県地域リハビリテーション支援センター主催、第 22 回群馬地域リハ研究会が開催されました。

看護の立場から地域で活動する関連職種に求めることをテーマに、梅原里美先生にご講演いただきました。地域に出ると、加齢に伴う身体機能の低下や、疾患に伴う後遺症、認知症により住み慣れた地域での生活が困難となる場合も少なくありません。今回は認知症に着目した内容で、認知症の症状や特徴、訪問リハビリにて実際に遭遇する認知症症状、事例を通して具体的な対応方法や目標設定の仕方などをお話ししていただきました。普段の業務でも認知症の方と接する機会もありますが、看護の視点から説明していただいたことで、リハビリという限られた時間で接する以外での、認知症の症状や特徴を知ることができ、新しい発見や気づきも多くありました。また、質疑応答でも現場で働く方々のリアルな悩みに対して、具体例を持ってお答えいただき、業務でも活かせる対応方法を学ぶことができました。

山路雄彦先生には、災害リハビリテーションをテーマに、実際に能登半島地震で活躍した JRAT について、ご講義いただきました。被災地では生活不活発病が問題とされており、運動指導や環境調整など、理学療法士として関わることがいくつもあると知ることができ、今後災害に備えて準備や意識を持っていくことが重要だと学びました。

（医療法人 相生会 わかば病院 星野文哉）



後期研修 E 講座 第 2 回事例検討会 開催

令和 7 年 2 月 16 日（日）、後期研修 E 講座 第 2 回事例検討会が群馬大学昭和キャンパス保健学科中講義室にて開催されました。群馬県済生会前橋病院の田嶋潤也先生より「人工骨頭置換術後に PNF 手技を用いて歩行能力の向上を図った症例～急性期から終末期までのリハビリテーションを通して～」について、群馬大学医学部附属病院の宮下聖生先生より「急性骨髄性白血病の再発と慢性移植片対宿主病を呈した症例に対する理学療法介入」について症例発表をおこなっていただきました。41 名の参加があり、参加者も多く、盛り上がった事例検討会となりました。

群馬県 POS 連絡協議会主催

第 5 回災害支援とリハビリテーションに関する研修会開

令和 7 年 2 月 27 日（木）、3 月 4 日（火）、オンラインにて第 5 回災害支援とリハビリテーションに関する研修会が開催されました。

特別養護老人ホームやまつじの南川基治先生より、「リハ職における災害支援とは」をテーマに、平成 30 年 7 月豪雨災害、令和元年東日本台風被害、令和 6 年能登半島地震それぞれの災害派遣福祉チーム（DWAT）の派遣の流れや実際の支援活動について、ご講義いただきました。また、令和 6 年度能登半島地震における JRAT の体制や活動内容、チーム員の役割についても具体的に解説いただきました。

また、令和 6 年能登半島地震に対し、実際に支援に行かれた群馬 JRAT の報告について、1 次隊の活動として OT 関根圭介先生、2 次隊の活動として OT 貝淵正人先生、3 次隊として OT 山浦卓哉先生および PT 佐藤恵理先生より、災害のフェイズに合わせた支援内容について、詳しく解説いただきました。

実際の現場での活動の様子について多くの写真を用いながら解説していただき、災害支援を行える人材を増やすことの重要性や各職種の連携が重要であることを学ぶことができました。普段の生活の中で災害について考えていくこと、災害が起きた時に自身の職場でどう動けるか、地域の支援に加わっているのかを考える良い機会となりました。

令和 6 年度中毛ブロック施設間連絡会 開催

令和 7 年 2 月 28 日（金）、群馬医療福祉大学本町キャンパス+Zoom によるハイブリッド形式にて、令和 6 年度中毛ブロック施設間連絡会が開催されました。「臨床研究の進め方～研究デザインの考え方～」をテーマに、高崎健康福祉大学 篠原智行先生より、研究デザインの解説や研究のプロセスについて等、わかりやすく解説いただきました。臨床研究を進めるにあたって直面するであろう研究デザインの悩み事を解決する一助になるような講義内容でした。また、日々の臨床現場で疑問に感じた際に、大小にかかわらずメモを取り、グループで批判をせずにアイデアを出し合う機会を作ること重要であることを学びました。また、研究場面での ChatGPT など AI の進化の可能性も感じることができ、とても学びの多い研修となりました。



第 55 回技術講習会 開催

令和 7 年 3 月 9 日（日）、第 55 回技術講習会が高崎健康福祉大学にて開催されました。運動器ケアしまだ病院、村木孝行先生に肩関節疾患に対する理学療法について講義をしていただきました。基礎的な肩関節の運動学から、肩関節の ROM 制限に対する評価や治療について実演、実技を交えながらご教授していただきました。実技では 2 人 1 組となり、不明点は直接先生からご指導していただきながら評価や治療することができました。実際に治療前後での変化を感じることができ、肩関節の治療に対する考え方や新しい視点を学びました。

医療法人 相生会 わかば病院 宮川夢

羽)



第 1 回群馬 PT 学生交流フェス 開催

令和 7 年 3 月 15 日（土）、昌賢学園まえばしホール 小ホールにて第 1 回群馬 PT 学生交流フェスが開催されました。群馬県内の学生を対象に各養成校から 2～4 年生を中心に多くの学生に参加いただきました。交流フェスは 2 部制となっており、1 部はキャリアを拓く力：第一線で活躍する PT による実践講義をテーマに「スキルアップを目指して～生涯学習制度について～」群馬大学医学部附属病院の萩原晃先生より OJT や off - JT の研修についてなどの説明をわかりやすく解説いただき、学生の皆様も真剣に講義を聞いており、PT を取得してからのイメージができたのではないかと感じました。

榛名荘病院の竹内棟熙先生より、3 年目として学生に近い立場から、学生時代の取り組みや就職活動での重視した点など具体的に解説いただきました。また、学生時代を振り返って、学生のうちから考えておいた方がよいこと、やっておいた方がよいことなど具体的にご講義いただきました。

堀江病院の久保一樹先生より、キャリア形成について、総合臨床実習で学んだこと、就職活動から現在の臨床での活動、大学院へ進学を決めた理由、認定理学療法士取得のメリット等、実際の活躍の場面や自身の体験を交えて解説いただきました。学生のうちから見る、聞く、学ぶことが重要であることを伝えていただき、取材をしている私自身もとても刺激を受けました。



2部は楽しみ企画として群馬県理学療法士協会 渡辺真樹会長に司会・進行していただき、ビンゴ大会を行い、学生の皆様も笑顔が見られ、とても盛り上がりました。



【参加者からのコメント】

群馬パーズ大学 理学療法学科 3年 長鈴那さん

先日参加した講演では、理学療法士としてキャリアアップを図ることの重要性について学びました。講演者は、資格取得や勉強会への参加が、自身の専門性を深めるための成長への鍵であると強調されていました。また、大学院での学術活動が、理学療法士としての視野を広げることにも繋がると知り、大変興味を持ちました。

私は現在、理学療法士を目指して勉強を続けていますが、講演を聞いてからは、これからのキャリアを具体的に考える必要性を強く感じています。例えば、群馬県理学療法士協会の活動に参加することで、地域の中でどのように貢献できるのかを考え、学び続ける姿勢を大切にしたいと思います。

この講演を通じて、学ぶことに終わりが無いという実感を得ました。そして、自分自身が目指す理学療法士像に近づくために、積極的に技術を磨き、知識を深めていきたいと強く思いました。これからも、講演で学んだことを糧に、一步ずつ成長していきたいと思えます。



会員動向

令和7年5月7日現在

会員数 2,029 名、休会 419 名、施設数 431 施設

ニュース收受

2025/4/1	和歌山県理学療法士協会ニュース No. 104	和歌山県理学療法士協会
2025/4/1	群馬県医師会報 No. 920	群馬県医師会
2025/4/4	兵庫県理学療法士会だより No. 206	兵庫県理学療法士会
2025/4/8	IPTA インフォメーション No. 187	茨城県理学療法士会
2025/4/15	岐阜県理学療法士会学術誌 第 29 号	岐阜県理学療法士会
2025/4/15	秋田理学療法 第 32 巻	秋田県理学療法士会
2025/4/18	会報 群臨技	臨床検査技師会
2025/4/22	群馬県歯と口の健康週間県民公開講座のご案内について	群馬県歯科医師会
2025/4/25	秋田理学療法士会ニュース 第 216 巻	秋田県理学療法士会
2025/4/25	千葉県理学療法士会創設 50 周年記念誌	千葉県理学療法士会
2025/4/30	「からっ風通信」第 160 号	群馬県作業療法士会
2025/4/30	JPTA NEWS No. 354	日本理学療法士協会
2025/5/1	スポーツ科学群馬 Vol. 17	群馬県スポーツ協会
2025/5/1	群馬県医師会報 No. 921	群馬県医師会
2025/5/7	大阪府理学療法士会ニュース第 298 号 デジタル配信	大阪府理学療法士会
2025/5/7	第 52 回四国理学療法士学会誌 第 46 号	四国理学療法士学会
2025/5/7	滋賀県理学療法士会 学術誌 第 44 号	滋賀県理学療法士会
2025/5/13	ケアマネ群馬 No137	群馬県介護支援専門員協会

*** 編集後記 ***

源流発行にあたり、執筆を快くお受けいただいた先生方、また研修会取材にあたりご協力いただきました先生方には心より感謝申し上げます。

研修の取材を通して様々な研修に参加し、多くのことを学ばせていただき日々の臨床に生かしていければと感じています。経験年数を重ねるごとに、政治や国の動向にも関心を持たなければ、自分達の働く場所や職域を守っていけないと感じるようになってきました。

理学療法の技術や知識の自己研鑽だけでなく、政治にも関心を持ち、自分自身の理学療法士のライフワークバランスも改めて考えていこうと思います。

石関 直忠